



丸小だより

～ 実践目標 自分が輝く、みんなも輝く～

平成 29 年 5 月 1 日 (月) No. 2

横浜市立丸山台小学校長 新井 篤志

宿泊体験学習から学べること

5 月から 6 月にかけて、4 年生は 1 泊 2 日でみなとみらいにある日本丸で、5 年生は同じく 1 泊 2 日で静岡県清水で、また 6 年生は 2 泊 3 日で群馬県赤城でそれぞれ宿泊体験学習を行います。宿泊体験学習を通して子どもたちは様々な学びができます。

1 つ目は、学校や家庭を離れた場所で寝食をともにすることで、人とのつながりを深めるきっかけになります。集団で生活するためには協力が必要です。友達との関わり方を様々な活動を通して学べるのが期待できます。これは小学生対象のスポーツクラブや中学校の部活動で行う合宿のねらいにもつながることです。2 つ目は、自然にふれあえることです。都会で生活する子どもたちが自然と関わる体験をすることは今の時代はなかなか難しいです。以前は子どもたちが日常生活の遊びの中で行っていた「どろんこ遊び」や「基地ごっこ」などは、遊び場所さえ見つけることができにくいといえるでしょう。それだけに海や山での自然と直接ふれあえる活動は子どもたちにとっても新鮮なものと考えます。ここでの新鮮な驚きが子どもの豊かな感性を育てることにつながると思います。そして、本やインターネットなどから得る間接的な知識だけでなく、直接体験から得る知識の大切さを実感できることでしょう。3 つ目は、様々な人とのふれあいが生まれることです。宿泊体験学習で子どもたちが出会う人たちは、それぞれの職業の専門家でもあります。こうした人たちから学べることは子どもたちの世界を広げることにつながり、子どもたちの生き方にも何らかの示唆を与えてくれると考えます。だいぶ前になりますが、大阪のある高校で沖縄県にある離島へ宿泊体験学習を行い、島の人々とのふれあいを通して高校生が大きく変わったという事例報告がありました。やはり、人との関わりから学んだことには、子どもたちの心の中に何か残るものがあるのだと感じます。

宿泊体験学習では、現地での活動はもちろんのこと、それに向けての事前や事後の活動も含めて、子どもたちの成長につながる教育活動にしていきたいと考えます。「何か一回り大きくなったように感じる」「前と生活のようすが変わってきたようだ」のような変容を期待したいです。

今月号の中面に平成 28 年度の中期学校経営方針とそれに対する学校評価についてお知らせいたします。これは、昨年度実施した「にこにこアンケート」「丸小を見つめて」「自己評価」「まち懇」などのご意見を総合的に分析し評価したものです。これを踏まえ、平成 29 年度の中期学校経営方針は現在作成中です。5 月 22 日に予定されている学校説明会（終了後引き続き PTA 総会）でお知らせします。